



## IFCAのミッション

小さいですが、エネルギーにあふれた非営利団体が立ち上がりました。その名インターナショナル フォスターケア アライアンス (IFCA) のとおり、このNPOは、**日本とアメリカが、お互いの児童福祉システムの向上のために語り合う場を創造し、共にさまざまな活動をしてゆきます。**

この団体には、ふたつの目的があります。

1. **日本とアメリカの、施設や里親家庭で育つ子どもたち、そして、フォスターケアを離れて自立した若者たちの交流と協働を実現させる。**
2. **真に「子ども中心」な児童福祉の実践と、虐待を受けた子どものケアにあたる人たちの支援のために、日米の専門職に就く人たちが連携する。**

IFCAは3つの領域で、プロジェクトを展開しています。

- 1) **ユース 社会的養護の当事者**
- 2) **ケアギバー 子どものケアにあたる人たち**
- 3) **プロフェッショナル 児童福祉の仕事に携わる人たち**

## IFCAへの寄付

皆さまから届く大切な寄付金は、IFCAのプロジェクトの実費や団体の運営のためにつかわれます。寄付金は、下記の銀行口座にお振込くださるよう、お願いいたします。

三菱UFJ銀行川崎支店 253 普通 0512666  
インターナショナル フォスターケア アライアンス

IFCAへのお問い合わせは、下記のメールアドレスをご利用ください。

[info@ifcaseattle.org](mailto:info@ifcaseattle.org)

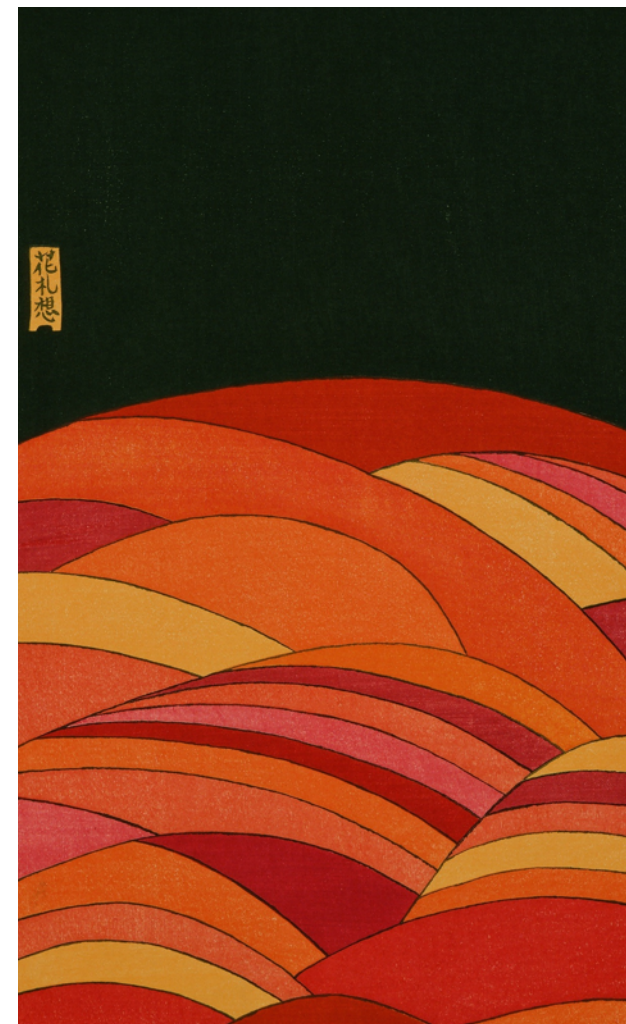
IFCAのホームページ

[www.ifcaseattle.org](http://www.ifcaseattle.org)

INTERNATIONAL FOSTER CARE ALLIANCE  
6542 4TH AVE. NW, SEATTLE, WA 98117  
206.612.3732  
INFO@IFCASEATTLE.ORG  
WWW.IFCASEATTLE.ORG

# IFCA

International Foster Care Alliance





## 日本とアメリカの児童福祉をつなぐ、架け橋をつくろう Connecting Youth, Caregivers and Professionals Overseas

### 1) ユース 社会的養護の当事者

IFCAは、日本とアメリカの施設や里親家庭で育つ子どもたち、そして、フォスターケアを離れて自立した若者たちの、交流と協働の実現をめざしています。

IFCAは現在、日米両国でユースチームを編成中です。日本とアメリカの社会的養護の当事者たちが、お互いの国を訪ねて『ユースによる、ユースのための』活動を展開してゆきます。

日本国内だけでなく、グローバルな立場から、当事者活動を体験したい方、また、ユースプロジェクトにお問い合わせのある方は、IFCAのメールアドレスにご連絡ください。  
[info@ifcaseattle.org](mailto:info@ifcaseattle.org)

文化や環境は違っても、進学や就労の困難、安全な住居や信頼のできる大人の確保の難しさなど、日米の当事者たちの直面している現実には共通項がたくさんあります。国や自治体の自立支援への政策は日米で違いがあるものの、両国の若者たちのフォスターケア制度改善への願い、そして、当事者の権利保障と、実生活向上への取り組みには、重なり合う点があります。

IFCAは、ふたつの国の虐待やネグレクトを生き抜いた若者たちが、フォスターケアでの経験を自由に語れる“場”を創造します。感じていること、考えていることを表現し、人に伝える行為そのものが、エンパワメントにつながるからです。

IFCAは現在、施設や里親家族で育つ子どもたち、また、フォスターケアをはなれて自立したユースたちからのエッセイ、詩、絵を広く募集しています。選ばれた作品は英訳され、日本語と英語の両方の読み手にウェブサイトをおして発信されます。応募の詳細は、IFCAのホームページをご覧ください。  
[www.ifcaseattle.org](http://www.ifcaseattle.org)

### 2) ケアギバー 子どものケアにあたる人たち

IFCAは、安全な暮らしと健やかな発育は、子どもたちの基本的な人権だと考えます。安定性のある家庭的な環境を確保するために、私たちは、子どもの日々のケアにあたる里親や親族に、最良の支援を届ける活動を広めています。

ケアギバーたちの孤立を防ぎ、地域のリソースを駆使して支えることは、日米に共通するテーマです。里親が減少し続けたアメリカでは、新しい里親を募り、維持するための最善策を長年にわたって模索してきました。日本は、年々増加する子ども虐待への対応だけでなく、児童の育つ環境を、大舎型の施設から里親などの「家庭的な環境」へ方向転換するという大きな課題を担っています。

現在 IFCAは、モッキンバードソサエティという、ワシントン州シアトルのNPOが考案した効果的な「里親支援モデル」を日本に導入する計画を、他機関と協力しながら進めています。厚生労働省が「社会的養護の課題と将来像」の中で、里親支援と里親委託率の引き上げを目標に掲げる現在の日本に、この米国の「里親連携型」支援法が多くのヒントを与えてくれることでしょう。

IFCAは、ウェブサイトと出版物をとおして、日米両国のケアギバーの現状を伝え、お互いの国で虐待を受けた子どものケアにあたる人たちが、アイデアや思いを表現、交換できる場をつくりました。

日本とアメリカでは文化的な違いはあっても、里親や親族里親をとりまく現実には共通点が多くみられます。里親リクルートの難しさ、親族里親への支援リソース不足、里親の孤立などがその例です。日英両国語で発信される貴重な情報は、IFCAのウェブサイトから、ご覧ください。

IFCAはワシントン州シアトルを拠点に活動をする他に、東京にも事務局を置いて連携をはかっています。

### 3) プロフェッショナル 児童福祉の仕事に携わる人たち

IFCAは、日本とアメリカの児童福祉にたずさわる専門職の人たちの、お互いの知識や経験を生かした交流と、国際的な共同プロジェクトを推進しています。私たちは、プロジェクトの構想と計画だけでなく、経済的なサポートも行うことで、両国の子どもや大人のクライアントへの、最良のサービスやプログラムを提供しています。

**IFCAの業績**：私たちのNPOは、2012年に米国歳入法に基づき、非営利団体に認定されました。設立にかかわった4人の理事全員が20年以上の児童福祉、子どものメンタルヘルスの分野での経験を持っています。IFCAはまだ新しく、小規模な団体にもかかわらず、立ち上がりの年に目覚ましい成果を上げました。

2012年11月、IFCAは、アメリカから、最初のトラウマフォーカスト認知行動療法 (TF-CBT) の正式トレーナーを、日本に招聘しました。コロラド州ケンブセンターのトレーナーによる3日間のワークショップは、日本の3都市で行われ、およそ120の専門職が研修を終了しました。TF-CBTはアメリカで開発され、臨床実験でその成果が認められた、13歳から18歳までの子どもと、その保護者のための画期的なトラウマ療法です。近年、日本のメンタルヘルスの専門家たちが、この療法をとりいれるべく、努力をかさねましたが、その計画にはたくさんの困難が立ちちはだかり、米国からトレーナーを招致することは実現しませんでした。日本でのTF-CBTワークショップの受講生は、現在、電話上でこの米国トレーナーによるコンサルテーションを受けながら、虐待の犠牲になった子どもたちとのセラピーにのぞんでいます。

TF-CBTをはじめ、IFCAのプロジェクトにかんするお問い合わせは、メールアドレスをご利用ください。